

卒業生答辞

冬の寒さも和らぎ、柔らかな春の光に包まれた、この良き日に、私たち卒業生のために、この様に盛大で厳かな卒業式を催していただき、本当にありがとうございます。

本日、喜びの気持ちでいっぱいの私たち261名の卒業生を代表し、ご挨拶させていただきます。

振り返れば、あっという間の6年間でした。神輿で盛り上がった高2の開成祭、力を出し切った最後の体育祭、みんなで泳ぎきった遠泳、そして初めて訪れた海外への修学旅行……。走馬灯のように思い出が頭の中を回ります。

何と言っても、一番胸に残っている事は、部活動と勉強、その両方の時間をどうやって確保していくかと悩み続けたことです。私は、中学・高校とサッカー部に所属していました。他の人よりも少しでも上手になりたい、試合に勝ちたいという気持ちで取り組んだ練習は厳しく、朝が弱い私には、朝練は特にきつく思いました。学校の近くに住んでいる私が、そんな事を言ったら、他の運動部の友だちには申し訳ないのですが、それでも朝早く起きるのは辛いものでした。他の友だちはもっと大変だったと思います。

朝練の後の授業では、ちょうど2時限目辺りに睡魔が襲ってきて、何とか眠らないようにと必死でしたが、気が付いたら次の授業が始まっていたこともしばしばでした。先生、あの時はすみませんでした。

どうしたら勉強と部活動を両立させることができるかと、特に高校に入ってから考える日が続きました。家に帰ってからも「今日は、数学の問題を解こう、明日は英語をやろう」と、計画は立てるものの、夕食後机に向かうと、いつの間にか机の上で眠ってしまったことも幾度となくありました。その度に「ああ、また寝てしまった」と自己嫌悪に陥ったものです。せめて、授業中にわからなかった事は、休み時間に解決しようと、先生を引き止めては質問しました。あの時、嫌な顔をせずに質問に答えてくださった先生方、本当にありがとうございました。

3年の夏までそんな葛藤の日々が続きました。それでも部活動との両立にこだわったのは、自分にとって部活がとても大切な存在だったからです。サッカーの技術を向上させたいという気持ちだけではありません。先輩から学んだことは多く、仲間と時にはぶつかりましたが、あいつががんばっているからという支えが常に心の中にありました。そして、後輩がいてくれたことで、自分たちがもっとしっかりしなければという気持ちが生まれ、それらが私を成長させてくれたからです。

夏、最後の試合に負け、みんなで涙したその次の日から私の受験勉強が始まりました。今まで眠くてできなかった分を取り戻そうと、朝から晩まで手当たり次第に問題を解きました。しかし、秋の模擬試験では、思うような結果が得られず、落ち込みました。そんな中、頑張り続けることが出来たのは、やはり仲間がいたからです。毎日のように学校の自習室に通い、互いに刺激しあいながら頑張った日々があったからです。2年生の皆さんも、今、同じように悩んでいることでしょうが、自分が選んだ方法を信じ、どうか最後までやり続けてください。

さて、私たちは春からそれぞれの道に進みます。志は皆様々です。私は、学生時代に海外に出たいという目標があります。そのきっかけになったのが、中学3年生のニュージーランドへの修学旅行でした。初めての海外旅行でした。普段と違う空気を吸い、異なる文化に触れ、ホームステイ先では家族のように優しく接していただいたことを今でもよく覚えています。もっと多くの国の人たちと触れ合いたいなと思っていたその年の夏休み、アジア16カ国の若者と3週間共に沖縄で生活するという機会に恵まれました。文化は勿論のこと、生活習慣や考え方の違いを、その時も肌で感じ、海外の同年代の仲間は、未来にかける情熱、チャレンジ精神が本当に素晴らしく、私は大変刺激を受けました。この仲間たちとこれからも一緒に学びたいと、その時強く思ったのです。

6年間の学校生活を振り返ると、先生方には、本当に感謝してもし尽くせません。熱心に勉強を教えていただき、体育祭や開成祭では、夜遅くまで私たちの企画に付き合ってくださいました。部活動の顧問の先生方には、朝早くから、そして土曜も日曜も、雨の日も風の日も、私たちをご指導いただき、時には叱っていただきました。感謝の気持ちでいっぱいです。特に高3の最後には、毎日のように職員室に通い、添削指導をしていただきました。「また来たのか」と思われたこともあったと思いますが、最後の最後まで面倒を見ていただき、本当にありがとうございました。また、遅くまで自習室を開けてくださった事務の方、学校の整備をしてくださった用務員の方々、本当にお世話になりました。

そして、お父さん、お母さん、普段はなかなか感謝の気持ちを伝えることが出来ませんが、この場で全員を代表して伝えたいと思います。今までありがとうございました。生まれてからこれまで、お世話ばかりかけてきました。心の中では感謝していても、素直になれないことが多い私たちですが、今こうしてこの日を迎えることが出来たのは、お父さん、お母さんのおかげです。まだまだお世話になりますが、これからも温かく見守り、応援してください。

最後に、お忙しい中ご出席くださいましたご来賓の方々、そして在校生の皆さん、本当にありがとうございました。私たちは、逗子開成中学校、高等学校で学べたことを誇りに思います。先生方に教わったことを胸に刻み、仲間と過ごした

日々を宝物にして、これからの未来に胸を張って向かっていくことを決意し、卒業生代表の言葉といたします。

平成25年3月1日  
卒業生代表 小野 貴史